

基本目標検証シートの見方と検証のポイント

総合戦略基本目標検証シート(平成27～29年度実績を踏まえて)

基本目標

1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする

計画内容

進学や就職で当市を離れた若者などが、その後、再び戻ってくる割合が一貫して低い状況が続いている。この背景には、地元の魅力ある職種が少ないこと、当市に居住しながら勤務できる企業が十分に立地していないこと、さらには、豊かな農林水産資源の高付加価値化等への活用が不十分であることなどがあると推測される。

当市では、人口減少に一定の歯止めをかけ、持続可能な地域づくりを推進するため、「しごと」をつくり、働く場の確保や働きたい場の創出を図ることが第一であり、産業振興による新たな雇用の創出をはじめ、農林水産業の高付加価値化、起業・第二創業の促進、女性や高齢者等の効果的な活用、さらには産業人材の育成や職業訓練の推進などにより、大船渡でしごとをつくり、誰もが安心して働けるようにする。

こうした取組を継続しながら、市外から人を呼び込む流れを生み出し、「しごと」と「ひと」の好循環へとつなげ、持続可能な「まち」の構築を図っていく。

重要業績評価指標	単位	目標値 (H31)	基準値	実績値(計画期間)					達成率 (対H29)
			H26	H27	H28	H29	H30	H31	
① 市内総生産	単 百万円	166,567	166,152	194,438	207,410	207,908			124.8
② 基盤産業総生産	単 百万円	32,392	30,211	42,714	40,625	41,450			128.0
③ 起業・創業件数	単 件	40	59	55	39	31			77.5
④ 職業訓練等受講者数	単 人	170	144	112	148	115			67.6

※①②の数値は、当該年度で把握した数値であり、2年前の実績値である。

重要業績評価指標に関する数値等を記載しています。「実績値」は、単年度で捉えるものと累計で捉えるものの2種類あります。「達成率」は目標値(H31)に対する直近(H29)の実績値の達成割合を算出したものです。これらにより、基本目標の計画内容がどの程度進捗しているか等がわかります。

○施策の体系と進捗度

施策1 産業競争力の強化

111 水産業連携強化促進プロジェクト

B

112 おいしい「食」づくり力向上プロジェクト

A

113 持続可能な漁業推進プロジェクト

B

114 港湾物流機能強化プロジェクト

B

施策2 新産業の創出と起業・第二創業支援

121 テレワーク導入促進プロジェクト

B

122 新分野進出促進プロジェクト

B

123 出る杭育てるプロジェクト(起業家輩出プロジェクト)

A

施策3 地域産業人材の育成とキャリア教育の推進

131 地域産業人材育成強化プロジェクト

B

取組の状況や指標の達成度、進捗状況等を踏まえ、総括を整理しています。赤字は主な修正箇所です。

左の総括を踏まえた今後の方向性を記載しています。効果検証として「今後の方向性が妥当であるか等」を検証いただくとともに、取組の改善に向けた提言等をお願いします。

評価結果(内部評価)	基本目標・施策の総括と今後の方向性	進捗度	
		進捗度	理由
	< 総 括 > ・施策1「産業競争力の強化」については、魚市場の水揚げ増強や水産流通加工業や漁業での人手不足対策、ILC誘致活動やポートセールスによる貨物確保等に取り組んだほか、「さかなグルメのまちづくり」の様々な取組等により、ブランド化の推進を図った。また、地域金融機関との共同により水産加工等の工場整備を支援し、働く場の創出を図った。今後とも、他業種との連携の促進による高収益化の促進が必要である。 ・施策2「新産業の創出と起業・第二創業支援」については、テレワークの推進や起業支援等の取組の充実を図るとともに、既存企業等に対する新分野進出への働きかけを行った。引き続き、復興需要収束を見据えた取組を加速させる必要がある。 ・施策3「地域産業人材の育成とキャリア教育の推進」については、在職者や求職者等への職業訓練や研修会、各学校での職場体験学習が実施されるとともに、遠隔教育プログラムの実施できる環境が整いつつある。引き続き、プログラムの提供手法等を検討する必要がある。	B	「さかなグルメのまちづくり」の様々な取組等により、ブランド化の推進が図られている一方で、個々の取組を連携させて地域全体で取り組む体制をつくる必要がある。

取組の状況や総括等を踏まえた結論としての進捗度を記載しています。効果検証として「この進捗度が妥当であるか等」を検証いただきます。※説明書きがない場合は、進捗度は昨年度と同様です。

左の進捗度に至った理由について記載しています。効果検証として「この理由が妥当であるか等」を検証いただきます。※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。